

キッズフェスタ 2024 に参加して

仲山 玖未

神奈川県総合リハビリテーションセンター リハビリテーション部 理学療法科

1. はじめに

2024年4月20～21日にTRC東京流通センターで第23回子どもの福祉用具展キッズフェスタ2024が開催された。バギーや車椅子などをはじめ、雑貨や玩具、食器など様々な福祉機器・用具の出展がされていた。キッズフェスタは医療に関わる専門職のみならず、当事者やその家族が福祉用具について情報収集し、さらに実際にその場で体験できる貴重な場である。また、セラピストとしては患者さんや利用者さん、同業者との久しぶりの再会の場でもあり、とても有意義な場である。



図1 会場

2. 子どもの排泄の問題

障害児に限らず子どもやその保護者が排泄の問題に悩むことは少なくない。しかし、その中でも障がいのある子どもたち（知的障害、自閉症、身体障害、神経発達障害、精神障害など）では失禁率は特に高くなることが報告されている¹⁾。子どもたちが失禁

してしまうことは、感覚過敏によるトイレへの苦手感や感覚鈍麻によりトイレのタイミングがわからないこと、トイレに行くのを我慢してしまうこと、尿意をうまく認知できないなど、様々な要因が考えられる。失禁が長期にわたることは尿路感染などの合併症の可能性が高くなることや本人の自尊心の低下、家族への負担など様々な問題を起こすことにつながってしまう。

3. 出展されていた排泄予測支援機器

今回キッズフェスタで出展されていた「D Free」はトイレの介護負担を減らすために開発された排泄予測支援機器であり、尿のたまり具合を見える化したデバイスである。「D Free」は超音波センサーを使用し尿のたまり具合を常時モニタリングし、たまり具合を10段階の数字で示すことができる。超音波センサーは手のひらサイズの小さなもので、恥骨から少し上の部分にセンサーを装着させるといった簡便な方法で使用が可能である。専用のアプリがあり、尿のたまり具合の表示やトイレのタイミングを教えてくれる通知機能を使用することができる。

今回、出展ブースでお話をさせていただき、近年は発達障害のお子さんも増えており、トイレトレーニングに悩む保護者も多く、「D Free」のように数値で見える化することによって、お子さんにもわかりやすく、トイレトレーニングの一助にもなれたらとのことであった。今回、はじめてこの機械を知り、障がいをもつ子どもたちの排泄問題について考えるきっかけとなった。

4. まとめ

キッズフェスタでは今回紹介させていただいた福祉機器以外にもなじみのあるものから最新機器まで多くの福祉機器・用具が出展されている。当事者や

神奈川県総合リハビリテーションセンター
リハビリテーション部 理学療法科
〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516

保護者と関わるうえで、福祉機器や用具の知識を蓄積させておくことは、より多くの情報提供や様々な提案をすることにつながるだろう。そのためにも今後も継続してキッズフェスタのような展示会に参加していきたいと感じた。

【参考文献】

- 1) Von Gontard A : Urinary incontinence in children with special needs, Nat Rev Urol 10:667-674